

| | 評価項目 | 自己評価 | | | | 現在の状況(成果と課題) | 学校評価委員からのコメント | 評定 |
|---------|---|------|-----|----|----|--|---|-----|
| | | 児童 | 保護者 | 教師 | 全体 | | | |
| ①学習指導 | 1 分かりやすい授業が実践されている。(ICTの活用、活用力の重視、家庭との連携) | 4 | 3 | 3 | 3 | ○ 分かりやすい授業や児童の意欲的な授業への参加については、4段階の評価では昨年度と変わらない結果が出ているが、細かく見ると児童の意欲について低下の傾向がうかがえた。今後、学ぶことの大切さについて児童に考えさせたり、指導方法の工夫改善を図っていくなどして児童の学習意欲の向上を図ってきたい。 ○ 家庭学習の習慣が身に付いていない児童が約40%いる。家庭学習は、学習内容を確かなものにする上で不可欠なものである。家庭との連携を図った取組について検討し、工夫改善を図っていく必要がある。 ○ 読書活動については、読み聞かせボランティアの方々による朝昼の読み聞かせや図書委員会による昼休みの図書貸出、秋の図書館祭りの啓発活動など様々な取組を行うことができた。ただ、児童アンケートでは読書に積極的に取り組んでいる児童の割合は60%未満であった。読書へのアニメーションやお話し読書等、児童の読書意欲を喚起するような取組の工夫をさらに図っていく必要がある。 ○ 地域との連携については、各学年で地域人材の活用や生活科・くしま学を通して身近な地域や中間の特産物・名所等、地域に密接した学習を展開することができた。ただ、保護者の意見の中には「地域との連携を図り交流を深める活動が少ない」という意見も見られた。連携の在り方について、さらに工夫していくとともに、連携の様子についての情報発信にも力を入れていきたい。 | ○ 個々の学習の成果は、学校だけではなく、家庭と連携してこそ成り立つため、私達保護者としても反省等しなければいけない。先生方はとても丁寧な指導してくださっていると思う。 ○ 市外の中学校へ進学する卒業生が増えているのは、その理由の1つに地元へ魅力を感じない子どもが多くなっている事だと思う。地域との連携を密にし、子どもが興味をもつような授業の力を入れていきたい。 ○ 先生方は、「分かりやすい授業、児童が意欲的に取り組む授業」を目指して取り組んでいる様子がうかがえる。しかし、家庭学習の習慣化に付いていない児童は、確実に定着に至っていない。学校参観等で家庭学習の習慣化、読書の大切さを話し、より多くの家庭で取り組まれることを期待したい。 ○ 今の教育はまことに詳細な面まで指導する内容になっているのに毎回驚いている。先生方のご苦労が切々と伝わってくる。何事にも意欲をもたせる方法、家庭学習や読書の習慣化など、一つ一つ真剣に取り組んでおられる様子が伝わってきた。ただ、堅苦しく考えないで、少し遊びのりしるをもつて対処すれば柔軟な対応ができるのではないかと。 ○ 「読み聞かせ」は、昭和63年の「家庭教育学級」を開講した際からスタートした事業。この事業が継続され、更に充実していることは称賛すべき事と思う。 ○ 発表の際の「発表します。」の言葉かけは、すばらしい発案だと思う。 | 3.3 |
| | 2 授業中の児童は、積極的に発表するなど意欲的に取り組んでいる。 | 3 | 3 | 3 | | | | |
| | 3 読み、書き、計算などの基礎学力が身に付いている。 | 3 | 3 | 3 | | | | |
| | 4 家庭学習の習慣が身に付いている。 | 3 | 2 | 3 | | | | |
| | 5 読書活動が充実している。(朝の読書、読み聞かせ、うち読、学校図書館利用) | 2 | | 3 | | | | |
| | 6 生き物や植物を大切に育てる心が育っている。(生活科・理科、飼育・栽培等) | 4 | 3 | 3 | | | | |
| | 7 地域との連携を図り、交流を深めている。(交流学習、くしま学ウォークラリー、宿泊) | 3 | 3 | 3 | | | | |
| ②生活指導 | 8 いつも「福島小 当たり前のこと3ヶ条」を意識させて学校生活を送らせている。 | 3 | 2 | 3 | 3 | ○ 「当たり前のこと3か条(あいさつ、言葉づかい、ろうか歩行)」については、児童が意識しやすいように昨年度までの8か条から3ヶ条に項目を絞り、ある程度の成果も見えた。しかし、実態を見るとまだまだ十分であるとは言えない。さらに3か条の徹底が図られるよう指導の工夫・改善を図ってきたい ○ 自分の子どもがきまりやマナーを守れていると答えた保護者の割合が78%であった。規範意識の育成に向け、家庭との連携や道徳教育・キャリア教育の充実等、総合的な取組の工夫・改善を図っていく必要がある。 ○ 清掃については、お掃除名人を賞賛する等の取組を通して、昨年度以上に清掃に真剣に取り組む児童の姿が見られるようになった。整理整頓については、下校時の持ち帰り指導や記名指導を家庭との連携を図りながら継続していく必要がある。 | ○ 守るべきことがはっきりしているというのは、子どもたちにとっても分かりやすくよいことだと思う。確実に実践してほしいことを「当たり前のこと3か条(あいさつ、言葉づかい、ろうか歩行)」に絞り、取り組んだことは、実態に応じた取組である。「先手必笑」「元氣な挨拶」は十分にできていると思う。清掃活動も自主的に行えており、とても良いと思う。 更なる定着を図るために、計画的、継続的指導をお願いしたい。 ○ 児童と教師の心が通じ合う方法として、悪いことを取り上げるのではなく、よいこと、ほめてあげたいこと、みんなが喜んだことを気がついたときにメッセージ箱に投函できる方法をとってはどうか。 ○ スーパーマーケットでは通路を走るなどの迷惑行為をしたり、通学路では二列歩行で悪ふざけをする姿を見かける。公衆道徳の指導をお願いしたい。 ○ 登下校中に高学年の児童が低学年の児童達の面倒を見てくれる姿をよく見かける。また、「おはようございます」「さようなら」等、声を掛けてくれる児童が多い。 | 3.3 |
| | 9 児童理解に努めている。 | 3 | 3 | 3 | | | | |
| | 10 児童は「福島小よい子の一日」や社会のきまりやマナーを守っている。 | 3 | 2 | 3 | | | | |
| | 11 児童は思いやりの心をもって友達に接している。 | 3 | 3 | 3 | | | | |
| | 12 児童は清掃活動に積極的に参加している。 | 2 | 2 | 3 | | | | |
| ③保健安全指導 | 13 児童の主体的な取組を促す手立てを明確にした体育的行事を計画する。 | 4 | 3 | 3 | 3 | ○ 運動会では、児童が競技・演技に、そして高学年児童はそれぞれの係に意欲的に取り組む姿が見られ、今年度も素晴らしい運動会を行うことができた。 ○ 早寝・早起き・朝ごはん等、基本的な生活習慣に関するアンケート項目では、保護者の肯定的な評価が69%であった。各学級(懇談)で話し合い、実態に応じて取組の目標を設定し実践していくなど、学校、家庭が連携して、基本的な生活習慣の定着が図られるよう取組を工夫し、意識の向上を図っていく必要がある。 ○ 保護者の意見の中には、大規模な災害を想定した避難訓練が実施できていないことを危惧するものもあった。今後、大規模な災害を想定し、児童の保護者への引き渡し方法等を含めた具体的な動きを検討していきたい。 | ○ 毎年、運動会ではたくさん「感動」をもらう。子どもたちのがんばる姿や先生方のがんばる姿に感謝の気持ちでいっぱいになる。 ○ 登校班によって、時間にばらつきがあり、早寝・早起きなどの基本的な生活習慣をもっと身に付けなければいけないと思う。 ○ 基本的な生活習慣の基盤とも言える「早寝・早起き・朝ごはん」等については、学校やPTAの重点実践項目の一つに位置付けて、今後も取り組んで欲しい。特に「朝ごはん100%」を目指して、学校、家庭で具体的な問題点を挙げての話し合いを続けてほしい。 ○ 運動会での個人用のテント使用は禁止すべきではないか。また、場所取りも地域間交流の考えを基に再考すべきではないか。 | 3.2 |
| | 14 家庭との連携の中で食育の推進を図っている。 | 3 | 3 | 3 | | | | |
| | 15 早ね・早起き・朝ごはん定着の呼びかけを行い、手洗い・うがいなどの基本的な生活習慣の定着を図っている。 | 2 | 2 | 3 | | | | |
| | 16 児童の危機意識を高め、迅速かつ安全に行動する避難訓練を実施している。 | 3 | 3 | 3 | | | | |
| ④学校運営全般 | 17 保護者が学校の様子を参観しやすい環境を作っている。(一時預かり等) | | 3 | 3 | 3 | ○ 参観日の設定の仕方については、改善を望む声もいづらが見られた。保護者にも様々な立場の方がいるので、この方法なら全員が納得というものはないが、児童の学習等の様子を親でもらい、家庭との連携を図っていくという参観日の大きなねらいが達成できるよう、よりベターな設定の仕方を模索していきたい。 ○ いじめのない学校づくりについては、日頃から児童生徒の行動の様子を把握したり、定期的なアンケート調査を行ったりしながら未然防止に努めてきた。また、いじめは起こり得るという認識のもと、もしいじめが起きてしまった場合にも深刻な事態に陥らないよう個々の事案について組織的に、また迅速かつ誠実に対応することができた。 | ○ いつ伺っても気持ちのよいあいさつを先生方がして下さって安心できる。安心して子どもを通わせることのできる学校である。 ○ 参観日の一時預かりは、ボランティアの協力により素晴らしい取組となっている。参観日の日程については、様々な意見があるが、現状がベターだと思う。 ○ 学校側では、保護者の意見を聴きながら、毎年改善している姿が見られる。児童や学校の様子を理解し、児童の望ましい成長のために家庭と学校の連携を深めるための参観日について、今後も創意工夫をお願いしたい。 ○ 保護者全員が納得できる参観日設定は難しいと思う。欠席者に後日、主だったことを知らせるという手立てをとってはどうか。 ○ 参観日等での駐車場は、十分すぎると思う。学校近くの家庭には徒歩、あるいは自転車での来校を促すべきではないか。 ○ 現在、深刻ないじめ等は起きていないようだが、いつ起こるか分からないという危機感をもって児童一人一人をみつめていってほしい。 ○ ロマンウォークの意義を再度確認する必要がある。 ○ 学校便り、ホームページ等で学校での児童の様子が手に取るように分かり、大変感謝している。また、用務員の方が学校の環境づくりに励んでいらっしゃる姿をよく見かける。暑い中、寒い中、頭の下がる思いである。 | 3.8 |
| | 18 学校便り、ホームページ、新聞等で学校の情報や児童作品を紹介している。 | | 3 | 3 | | | | |
| | 19 PTAの協力を得るなどして環境美化に努めている。 | | 3 | 3 | | | | |
| | 20 いじめのない学校を目指して努力している。 | 3 | 3 | 3 | | | | |